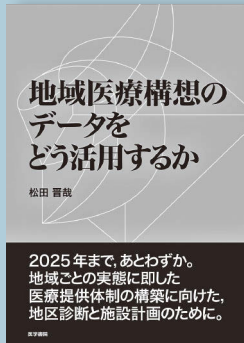


今月の 新刊紹介



地域医療構想のデータを どう活用するか

著：松田晋哉
発行：医学書院
定価：本体 3500 円＋税
B5 判 144 ページ

地域医療構想で求められる病院機能選択や病床転換。その判断に必要となる、病床機能別病床数推計などの基礎データの読み解き方と具体的な活用方法を解説。先進事例の紹介を交えながら、地域の医療ニーズに応えるための方策を第一人者が指南する。



〈シリーズケアをひらく〉 やってくる

著：郡司ベギオ幸夫
発行：医学書院
定価：本体 2000 円＋税
A5 判 312 ページ

疑い得ないものの代表である私たちの「いま・ここ＝現実」は、常に外部からやってくるものによって揺さぶられギリギリ実現されている。著者自身が直面したその揺らぎを丹念に分析することで、ケアという「小さき行為」の奥底に眠る思想に迫っていく。



〈シリーズケアをひらく〉 食べることで出すこと

著：頭木弘樹
発行：医学書院
定価：本体 2000 円＋税
A5 判 328 ページ

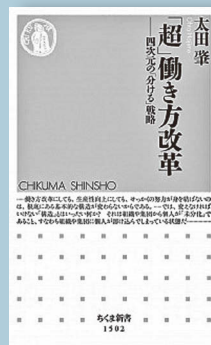
食べて排泄するという普段あまり意識していない「当たり前」な機能。この機能がうまくでなくなったとき、世界はどう変わったのか？潰瘍性大腸炎に襲われたカフカ研究者の織りなす、切実さの狭間に漂う不思議なユーモアが、「ケア」とは何かを教えてくれる。



ACP 人生会議で こころのケア

ケアする人、される人、共に死生観・スピリチュアリティの向上をめざして
著：天下大圓、梶山徹
発行：ピーニング・ネット・プレス
定価：2500 円＋税
A5 判

医療従事者に向けた ACP 実践の手引書。本書では、ACP とスピリチュアルケアとの関わりや、コミュニケーションツールとしての「臨床瞑想法」の活用方法などを解説。ケアする人のところにも焦点を当て、人生の意義を考えるきっかけとなる 1 冊。



「超」働き方改革 四次元の「分ける」戦略

著：太田肇
発行：筑摩書房
定価：本体 780 円＋税
新書判 208 ページ

人材の多様化と仕事の専門化が進む今、組織から個人を「分ける」ことが働き方の改革には必要である。「仕事を分ける」「職場を分ける」「キャリアを分ける」「認知的に分ける」という、4 次元での分化の方法と効果を解説するとともに、統合への展望を示す。



ブルシット・ジョブ クソどうでもいい仕事の理論

著：デヴィッド・グレーバー
訳：酒井隆史ほか
発行：岩波書店
定価：本体 3700 円＋税
A5 判 442 ページ

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、不要な仕事の再考が進む現在。文化人類学の視点から、現代社会にはびこる「クソどうでもいい仕事」のメカニズムに切り込んだ話題の書。そんな仕事の対極にあるエッセンシャルワーカーの目からはどう見えるか。

看護管理に
効く
1 冊

看護管理に
効く
1 冊